



VICTORY AMID AMBIVALENCE

2024年台湾総統選

「台湾独立派」頼清徳が勝利
今後の中台関係はいかに？

去る1月に行われた台湾総統選挙では、大方の予想通り、与党・民進党の頼清徳氏^{らいせいとく}が当選した。「台湾独立派」と見なされる頼氏の得票率は40.05%で、他の2人の野党候補に大きく水をあけて勝利したが、「中国との接近」を掲げて選挙戦に挑んだ侯友宜氏^{こうゆうぎ}、柯文哲氏^{かふんてつ}、両候補の得票率を合わせると60%に迫る結果となり、中国との関係性を巡って揺れる台湾有権者の複雑な心情も透けて見える形となった。

この選挙結果は何を意味するのか。ファリード・ザカリアが、台中問題のエキスパートに知見を仰いだ。



番組ホスト

ファリード・ザカリア

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル『フォーリン・アフェアーズ』編集長、ニュース週刊誌『ニューズウィーク』の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。

ゲスト

ボニー・リン

米シンクタンク・戦略国際問題研究所(CSIS)の中国パワー・プロジェクト部長。ハーバード大学を出て、ミシガン大学で中国に焦点を当てたアジア研究により修士号を取得。イエール大学で政治学の博士号を取得。中国・台湾の政治・外交のエキスパートとして、2015年から2018年まで、アメリカ国防長官府に勤めた。



Listening Quiz

77 中国が「筋金入りの独立派」と見なす頼清徳氏が勝利



Fareed Zakaria Yesterday's election in Taiwan might push the self-governing island closer to conflict with China. At least, that is the fear. Taiwanese voters chose Lai Ching-te as their new president. Lai is the current vice president and a member of the ruling Democratic Progressive Party, which wants closer ties with Washington and other democracies. He won against two rivals who both, in various ways, favored a warmer relationship with Beijing.

Joining me now is Bonnie Lin, the director of the China Power Project at the Center for Strategic and International Studies.

Bonny, welcome. Give us a sense of Lai Ching-te.



Bonny Lin Thank you, Fareed. So, Lai has been in Taiwan politics for quite some time. He currently serves as the vice president of Taiwan, but he's also held other national positions, including premier of Taiwan. He's also had positions at the local level. So in many ways, he is very much a seasoned politician as well as a supporter of Tsai Ing-wen for some time.

One thing we do know is that prior to the recent years, he has taken positions that China views as very much proindependence. They view Lai as a diehard proindependence worker. And that does raise potential for tensions if China were to operate on this very ill-conceived notion of Lai.

ambivalence:

《タイトル》両面性、相反する感情

self-governing:

自治の

conflict with:

～との紛争

president:

《台湾》総統

vice president:

《台湾》副総統

ruling:

与党の

the Democratic Progressive Party:

民主進歩党、民進党、DPP

democracy:

民主主義国家

the Center for Strategic and International Studies:

戦略国際問題研究所、CSIS

▶米シンクタンク。

give A a sense of B:

AにBはどのような感じかを伝える

premier:

《台湾》行政院院長

seasoned:

経験豊富な、ベテランの

Tsai Ing-wen:

蔡英文(さい・えいぶん)

prior to:

～より前に、～に先立って

proindependence:

独立賛成派の、独立派の

diehard:

頑固な、骨の髄までの

raise:

①～を高める、上げる

②(論点・話題などを)持ち出す、提起する

ill-conceived:

〈構想や発想が〉しっかり練られていない

notion:

理解、認識

*お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

ファリード・ザカリア 昨日の台湾総統選（の結果）は、自治を行うこの島を中国との対立に一步近づけることになるかもしれません。少なくとも、その不安はあります。台湾の有権者たちは、次期総統として頼清徳氏を選出しました。頼氏は現在、副総統を務めており、与党・民主進歩党（民進党）の一員です。民進党は、アメリカやその他の民主主義国家との関係強化を目指しています。彼が破った2人のライバル候補はどちらも、さまざまな形で、中国との関係改善を志向していました。

ここで戦略国際問題研究所の「中国パワー・プロジェクト」の部長、ボニー・リン氏をゲストにお迎えします。

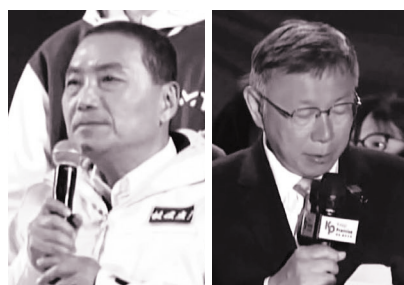
ボニー、ようこそ。頼清徳氏について教えてください。

ボニー・リン ファリード、お招きありがとうございます。そうですね、頼氏は長年、台湾の政界に携わっています。現在は台湾の副総統ですが、行政院院長を含め、国政レベルの要職を務めた経験もあります。また地方政界でも職務を担ってきました。ですから、いろいろな意味で、彼はまさにベテラン政治家であり、そしてかなり前から蔡英文総統を支持しています。

1つわかっていることは、数年前までの彼の姿勢は、中国からは「極めて強硬な独立派」と見えるものでした。中国は、頼氏を筋金入りの独立支持派と見なしています。もし、中国が、頼氏に対するこうした極めて短絡的な印象に基づいて行動を取れば、中台間の緊張が強まる可能性は高まります。



2024年1月に行われた台湾総統選で勝利した頼清徳氏



左から、中国国民党・侯友宜氏、台湾民衆党・柯文哲氏

■ Lai Ching-te (頼清徳／らい・せいとく)

1月13日に実施された総統選挙で、中国国民党・侯友宜（こう・ゆうぎ）氏、台湾民衆党・柯文哲（か・ぶんてつ）氏を破って、第8代台湾総統に選ばれた（5月20日就任予定）。'23年1月より与党・民進党主席。

大学では医学を修め、ハーバード大学で公衆衛生の修士号を取得している。内科医としてキャリアをスタートさせたのち、1996年より活動の場を政界に移す。台湾南西部の都市・台南市の市長を2010年12月から務め、その2期目の任期中に、蔡英文総統により行政院院長（首相に相当）に任命される。2020年の総統選挙に立候補するが、予備選挙で蔡英文氏に敗れ、第2次蔡政権で副総統を務めた。

最近是中国との関係にも目を配りながら、「独立色」を鮮明に打ち出すことには慎重になっている。